

すくわくプログラム こあら組

1. テーマ **色×五感** 五感とは・・・見る（視覚）、触る（触覚）、嗅ぐ（嗅覚）、
聞く（聴覚）、味わう（味覚）

～様々な物と色を混ぜたら、どんな色？どんな感触？どんな匂い？どんな味？～

- テーマの設定理由 4月～7月に絵の具遊びを数回行い、「たのしい」「もっとやりたい！」
という子ども達の興味関心が高いことから、色をテーマに様々な活動を行う
事にした。

2. 活動スケジュール
- | | | | | |
|--------|---|---|------------|-----------|
| ①様々な布 | + | 色 | 〈視覚、触覚、嗅覚〉 | ・・・8月末 |
| ②自然物 | + | 色 | 〈視覚、触覚、嗅覚〉 | ・・・7月～9月 |
| ③石鹸 | + | 色 | 〈視覚、触覚、嗅覚〉 | ・・・9月～10月 |
| ④染め布遊び | | | 〈視覚〉 | ・・・9月 |
| ⑤光り＆音 | + | 色 | 〈視覚、触覚、聴覚〉 | ・・・11月～2月 |

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ①様々な素材の布、絵の具、色々な筆
@ダイナミックに行える環境（園下にビニールを敷く）
- ②水、氷、泡、花、絵の具、入れ物、すり鉢セット
@園庭で水遊びと合わせて行う
- ③グリセリンソープ、リキッドカラー、ボウル
@溶かした石鹸で火傷しないように、囲いを作って行う
- ④ペーパー、布、絵の具
@チームごとに行う、やりたいだけ何度も行える環境
- ⑤ブラックライト、蛍光塗料
@暗い空間 危なくない環境設定

4. 活動内容

- ①様々な素材の布＆紙に、ダイナミックに絵の具を塗ってみる
同じ絵の具を使っても色の付き方は変わるのか？
触覚は変わるのか？乾いた後の布はどうなるのか？
- ②自然物に色をまぜてみる（水、氷、泡）
すりつぶして色を出してみる（花、食べ物）
色の付き方、冷たさ、感触、匂いはどんな感じか？ →更にごっこ遊びに展開
カフェごっこ、レストランごっこ、パーティごっこ
- ③宝石石鹸を作ってみる
好きな色をつくり、石鹸と混ぜ合わせる→2層・3層に色を組み合わせる
運動会の海賊の宝物でゲット→自宅で石鹸を使用
- ④染め布遊び →敬老の日のハガキで使用する
- ⑤光と音の空間を作りあげる
光る水族館 → さらに発展させて 光る宇宙

活動中の子どもの姿・声・子ども同士や保育者との関わり

①絵の具を手に取り、周囲を観察しながら塗り始める児もいれば、大胆に塗り始める児もいた。

足裏に絵の具をつけたり、指でぼたぼた絵の具を落とし布に描いていた。

次の日乾いた布を触り、「昨日よりも硬くなっている」「こっちはツルツルだ」

と素材の違いによってさわり心地が変わっている事に気付く。

②水遊び

・白・赤・青・黄をベースとして、自分達で混ぜ合わせて色々な色を作っていた。

次第にどの色を混ぜ合わせると何色が出るかを知り、感覚的に覚えてきているようで

「黄色と青を混ぜると緑になるよ」「赤と白を混ぜるとピンクになるね」と言う児も出てきた。

「せんせい、見て!」と変化した色を都度保育士に見せてくれる児や「その色どうやって作るの?」と

友達の作った色の作り方を聞き真似する児もいた。

また、混ぜる割合が違うことで微妙に色に違いがでていた。例えば、明るいピンクや濃いピンク、暗めなピンク等

・色水+泡ではカップの中に色水や泡を入れ飲み物を表現していた。

・大きさの違う2つの透明カップに違う色を入れて重ね、“混ざらない色水”でグラデーションを楽しんでいた児もいた。

「先生は何飲みたい?」と聞いて来たり、「はい、コーヒーです」と渡してくれた。

・泡でテラスの遊具を「きれいにしよう!」とキレイにしようとする姿あった。

・ティーセットを使用する際は、十分の数のテーブルや椅子を用意し椅子に座りながらパーティーごっこを

したり、ポットでカップに注いだ時の色の変化を楽しんでいた。

③宝石石鹸

・これまでの色遊びで自分の好きな色を知った子ども達。次は有形の物を作る事に挑戦。

グリセリンソープ（透明な石けんのもと）にリキッドを垂らし、色の変化を楽しみながら宝石石鹸をつくってみた。

選んだ色がグリセリンソープ内に混ざると垂らした液の量により濃さに差がでていた。

「青と赤がいい!」と色を迷いなくすぐに決める児が多かった。「ラメも入れてみよう」「キラキラしていてきれい」

大切そうに両手で宝石石鹸を持つ姿が印象的だった。

④染め布 ペーパーを三角や四角におり絵の具をつけてみる

・開いた時「綺麗な柄になったよ」「ほんとだ、きれいだね」

・色を乗せたところにさらに色を乗せ浸みていく様子や「ここからは赤、ここは紫」と色の境目に気付いていた。

・何枚も染めてみると、折り方によって模様が違くなる事に気付いた。

⑤光と音の空間

・自分の好きな生き物を、光る絵の具（蛍光塗料）を使って作ってみた。

全員の作品を飾りつけ、暗闇にすると「どんな感じで光るのかな?」「ちゃんと光るのかな?」とワクワクした様子だった。

ブラックライトをつけた瞬間、「わ〜!!!」と反応し、「きれい!」「私の作品光ってるよ」「〇〇ちゃんのも綺麗」

「もっとやりたい」「もっとつくりたい」という反応があった。

更に発展し、子ども達との話し合いで”宇宙”を作る事になると、「宇宙人をつくりたい!」と積極的につくりはじめた。

絵の具を使う事に慣れ、色を自分で混ぜてみたり、「紫にしたいから、青と赤を混ぜたい」という姿が見られた。

宇宙人、大きな地球、ロケット、銀河の壁紙、光るドリンクなどを作り、”宇宙人のパーティ”に他クラスや保護者を呼んで

楽しんだ。「宇宙楽しかったな」「またやりたいな」

音楽と光を合わせて幻想的な宇宙をつくる事が出来、満足感でいっぱいな子ども達だった。

写真



5. 振り返り（振り返りによって得た先生の気づき）

- ・『色』をテーマに様々な色・素材等を知り、実際に使ってみたり触れたりすることで、子ども達自身で得た気付きも多くあった。始めは保育士やお友達の真似をしてみることから始める児もいたが、活動を通して徐々に自信もつき、感じたことや頭の中に浮かんでいるものを描いたり形にしようとするできるようになってきた。
- また、色の掛け合わせを色水遊びやペイント等の体験を通して知り、「赤と青で緑色ができる」等子ども達同士で教えあう姿も見られ、色彩感覚も養われてきているように感じた。
- ・今まで汚れたくない気持ちが強い児も活動を重ねていくうちに「やってみたい」という気持ちの方が強くなり、現在ではどの児も絵の具が付いてしまう事を気にせず自由に表現するようになりとても成長を感じた。
- ・『光る水族館』や『光る宇宙』のように自分達で作った作品を褒めてもらい、見てもらう喜びや達成感、友達と1つの作品を作る一体感を感じていたようだった。
- ・毎回「次はこうゆうのをやってみたい」と次への期待を持ち話している姿があり、子ども達のキラキラした表情や満たされた顔を見ていると身近にあるテーマでこんなに活動の幅が広がったことは、始めた当初は想像もつかなかったのが本当にやってよかった。
- ・色をテーマにした探求は、季節に合わせてまた季節を問わず行う事ができ、また年齢によって活動の幅も変わり面白いテーマだと思った。